

生体牛の評価の試行結果(チリ)【暫定版】

生体牛リスクの総括(チリ)

<侵入リスク>

	1986-1990	1991-1995	1996-2000	2001-2005	2006-
生体牛	無視できる	無視できる	無視できる	無視できる	無視できる
肉骨粉	無視できる	無視できる	無視できる	無視できる	無視できる
全体	無視できる	無視できる	無視できる	無視できる	無視できる

<暴露・増幅リスク>

暴露・増幅リスク	高い		中程度	低い	非常に低い
	1986		2000 2001	2004	2007

<サーベイランス>

1996年より高リスク牛を対象としたパッシブサーベイランスおよびアクティブサーベイランス開始。

BSEサーベイランスシステムはOIEの規則と勧告に基づいて実施。

農場では、「死亡牛」および「臨床的に疑われる牛」のBSEサンプル、と畜場では、「不慮の事故によると畜牛」および「通常と畜牛」と定義される個体のサンプルを入手することに重点が置かれている。

BSE認知プログラムは1996年より実施。

母集団数(1996年) 合計約216万頭 (肉用牛約152万頭、乳用牛約62万頭、種畜牛約2万頭)

サーベイランスの成績					
年次	通常と畜牛	死亡牛	不慮の事故による と畜牛	臨床的に疑われる牛	合計
2005	1,333	578	1,494	99	3,504
2006	736	2,210	5,667	261	8,874
2007	410	1,913	5,289	115	7,727

生体牛の侵入リスク(チリ)

		1986-1990		1991-1995		1996-2000		2001-2005		2006-		合計	
		輸入頭数		輸入頭数		輸入頭数		輸入頭数		輸入頭数		輸入頭数	
輸入実績	英国	回答書											
		貿易統計											
	欧州(中程度汚染国)	回答書											
		貿易統計											
	欧州(低汚染国)	回答書					106						106
		貿易統計					106						106
	米国	回答書			38				9				47
		貿易統計			114		38						152
	カナダ	回答書	38										38
		貿易統計											
	その他()	回答書											
		貿易統計											
合計	回答書	38		38		106		9		0		191	
	貿易統計	0		114		144		0		0		258	

		1986-1990		1991-1995		1996-2000		2001-2005		2006-		合計	
		頭数	英国換算	頭数	英国換算	頭数	英国換算	頭数	英国換算	頭数	英国換算	頭数	英国換算
暴露要因となった可能性のある輸入牛	英国												
	欧州(中程度汚染国)												
	欧州(低汚染国)					106	1.06					106	1.06
	米国			38	0.00			9	0.00			47	0.00
	カナダ	38	0.00									38	0.00
	その他()												
	合計	38	0.00	38	0.00	106	1.06	9	0.00	0	0.00	191	1.06
		無視できる		無視できる		無視できる		無視できる		無視できる			

注) 輸入実績及び暴露要因となった可能性のある輸入牛については、加重係数を設定した期間の輸入頭数のみを記載している。

肉骨粉の侵入リスク(チリ)

			1986-1990	1991-1995	1996-2000	2001-2005	2006-	合計
			輸入トン数	輸入トン数	輸入トン数	輸入トン数	輸入トン数	輸入トン数
輸入実績	英国	回答書						
		貿易統計			2			2
	欧州(中程度汚染国)	回答書						
		貿易統計		1,638		8,527	8,877	19,042
	欧州(低汚染国)	回答書	10.6		44			55
		貿易統計			28			28
	米国	回答書			329			329
		貿易統計			602	227	196	1,025
	カナダ	回答書			6,605			6,605
		貿易統計			5,167			5,167
	その他()	回答書						
		貿易統計						
	合計	回答書	11	0	6,978			6,989
		貿易統計	0	1,638	5,799	8,754	9,073	25,264

		1986-1990		1991-1995		1996-2000		2001-2005		2006-		合計	
		トン数	英国換算	トン数	英国換算	トン数	英国換算	トン数	英国換算	トン数	英国換算	トン数	英国換算
暴露要因となった可能性のあるMBM※	英国												
	欧州(中程度汚染国)												
	欧州(低汚染国)	11	0.01			44	0.44					55	0.45
	米国					329	0.01					329	0.01
	カナダ					6,605	0.66					6,605	0.66
	その他()												
	合計	11	0.01	0	0.00	6,978	1.11	0	0.00	0	0.00	6,989	1.12
		無視できる	無視できる	無視できる	無視できる	無視できる	無視できる	無視できる	無視できる	無視できる			

※) 貿易統計の再調査により、2004年にスペインからチリへMBM1,888トンへの輸出が確認されたため、2001～2005年のトン数を変更(11/28 加筆修正)

注) 輸入実績及び暴露要因となった可能性のあるMBMについては、加重係数を設定した期間の輸入トン数のみを記載している。

生体牛の暴露・増幅リスク（チリ）

○飼料給与

2000年 反すう動物由来のたん白質の反すう動物への給与禁止。

2004年 ほ乳動物のたん白質の反すう動物への給与禁止。

○SRMの利用

利用実態の詳細は不明。

2005年に月齢30ヶ月以上の反すう動物の脳、小脳、眼、扁桃、脊髄および脾臓、また、すべての月齢の牛および羊の回腸遠位部をSRMと定義し、と畜場で他の臓器や組織から切り離し、化学薬品で変性し、焼却処分するか埋め立て処理場へ搬出することが決められている。

2006年より、SRMの食用禁止。

○レンダリングの条件

2001年より、反すう動物由来のたん白質等加工における予防的衛生措置（OIEが推奨する加工条件：133℃/3気圧/20分/50 mm）を設定

○交差汚染防止対策

牛と豚・鶏との混合飼養は行われている。飼料給与に関する農場における検査結果では違反数は無し。

飼料製造施設では、ライン分離・ライン洗浄を行っている。（飼料製造施設におけるサンプリングでは、2005年に221件中1件の陽性サンプルを検出。）

2001年以降のデータによると、レンダリング施設は、すべて専用施設。

<暴露・増幅リスク>

	飼料給与の状況	SRMの利用、レンダリングの条件、交差汚染防止対策	判定
1986～1999年	特に規制無し		高い
2000年			中程度
2001～2003年	反すう動物由来たん白質→反すう動物への給与禁止	・2001年より133℃/3気圧/20分/50 mmでのレンダリング処理を規定	低い
2004年～	ほ乳動物由来たん白質→反すう動物への給与禁止	・2005年よりSRMは他の臓器や組織から切り離し、化学薬品で変性し焼却処分するか、埋め立て処理場へ搬出することが決められている	非常に低い